

## 第7回東北地方交通審議会議事録

**日 時** 平成16年5月25日 13:30～14:25  
**会 場** 江陽グランドホテル 4階 「翡翠の間」

**出席委員** 八島会長、稲村会長代理、上野委員、恩地委員、勝股委員、菅野委員、熊谷委員、清水臨時委員、西谷臨時委員、嶋津臨時委員、三船臨時委員、湯村臨時委員、青木臨時委員、得能臨時委員(小林東北管区警察局広域調整部長)、三村臨時委員(鈴木青森県企画政策部理事)、増田臨時委員(法貫岩手県地域振興部地域企画室長)、浅野臨時委員(松元宮城県企画部次長)、寺田臨時委員(青山秋田県建設交通部次長)、高橋臨時委員(柏倉山形県土木部次長)、佐藤臨時委員(熊田福島県生活環境部参事)、藤井臨時委員(保科仙台市都市整備局長)  
※ ( ) は代理出席者

**運輸局** 久米東北運輸局長、飯塚東北運輸局次長、長濱企画振興部長、白井交通環境部長、大川鉄道部長、小森自動車交通部長、小原海事振興部長、五代儀企画課長補佐

### 議 事

#### 【事務局(五代儀企画課長補佐)】

委員の皆様お揃いとなりましたので、ただ今より第7回東北地方交通審議会を開催させていただきます。

それでは、本審議会の開催にあたりまして、東北運輸局長より一言ご挨拶を申し上げます。

#### 【久米東北運輸局長】

東北運輸局長の久米でございます。

本日はご多忙の中、東北地方交通審議会へご出席賜り、大変ありがとうございます。

また、日頃より国土交通行政につきまして、ご理解・ご支援を頂いておりますことに改めまして御礼申し上げます。

さて、昨今の交通や観光を巡る状況でございますが、

まず、観光についてみると、政府としても総理自らが観光立国を提唱され、観光振興が重要課題の一つとなってきたところであり、昨年度から官民が我が国への外国人観光客誘致を促進するための「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が本格展開されるなど、観光施策の充実も図られているところです。

そして、その成果も徐々に現れてきているところであり、例えば、昨年の訪日外国人観光客数は、前半に新型肺炎SARSの影響などから大きく落ち込んだものの、後半からは毎月対前年比10%台の増加となり、結局過去最高であった一昨年とほぼ同水準にまで盛り返しました。

こうした中、各地で観光振興の取り組みが強化され、まさに地域間競争が激化しておりますが、東北地方は、幸いにも、本審議会の下に設置された観光戦略部会において、東北6県の官民の観光関係者の英知を結集しご審議を頂き、今年1月に、他地域に先駆けて中間報告をおとりまとめ頂きました。私どもと致しましても、この提言を踏まえつつ、関係の皆様のご尽力を得つつ、観光振興策を推進しているところでございます。

また、交通の関係については、14年12月に開業した東北新幹線盛岡―八戸間が非常

に好調で、二次交通の充実も相俟って、その効果が広域的に波及したところです。こうした広域交通基盤の整備効果を最大限に活かし、地域間交流を促進することが、今後の東北地方の活性化を図る上で重要な課題となっていると考えております。

また、地域の足の分野でも、少子化等の影響もあり、地方鉄道や路線バスの輸送人員の減少に歯止めがかからない状況ではございますが、一方で、各地で創意工夫を活かした新たな取り組みが進んでおります。こうした地域の実情に合わせた、地域の足の確保策をどのように進めていくかということも重要な課題です。

いずれに致しましても、交通や観光を巡る環境は大きな変革期を迎えており、こうした変化に適切に対応した、新たなビジョンの必要性は一層高まってきていると考えております。

委員の皆様におかれましては、是非活発なご審議をお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

#### 【事務局(五代儀企画課長補佐)】

ありがとうございました。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。ここからの進行は、八島会長にお願い致します。

#### 【八島会長】

それでは、早速、議題の1に入らせていただきます。

観光戦略部会の中間報告を、観光戦略部会長をお務め頂いている恩地委員よりお願い致します。

#### 【恩地委員】

恩地でございます。ご報告申し上げます。昨年3月の諮問事項のうち、観光振興戦略に関する専門的な審議を進めるため設置されました観光戦略部会では、これまで3回の部会を開催いたしまして、先ほど局長からもご紹介がございましたように大変熱心なご議論をいただきました。そして、これまでのご議論の成果として、今年1月、第3回部会で中間報告を取りまとめさせていただいたわけであります。

皆様ご案内のとおり、観光はすそ野の広い総合産業であり、また近隣アジア諸国を中心に、今後、国際観光の需要の大幅な増加が見込まれることなどから、これからの地域活性化の鍵として注目されております。それゆえ各国、地域においては、観光振興に対する取り組みが強化され、まさにグローバルな競争が激化しているところでございます。

こうした中で、東北地方により多くの観光客を誘致するためには、他の地域に先んじて強力な取り組みを進める必要があるかと存じます。そのため、中間報告では東北地方の観光の現状、課題の分析や今後の方向性に関する中間的な取りまとめにとどまらず、グローバルな競争を勝ち抜いていくために、早急に取り組むべき施策を明らかにしております。

例えば、東北地方の観光の課題の一つである海外からの観光客の少なさを克服するため、東北六県が一体となった強力なインバウンドイベントの実施などを挙げておりますが、この緊急政策の提言が、まさに今回の中間報告のポイントでございます。3回に渡りましたこの議論の中で、各県を代表する皆様とそれから民間の皆様との意見が、いろんな面で共通の認識になったということが大変喜ばしいことではなかったかと存じております。

この中間報告で提言されました緊急施策に関しましては、今年2月に東北六県の官民が一体となって、海外重点市場の旅行エージェントやマスコミといったキーパーソンを招聘し、東北の魅力を発信する「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」の開催をはじめとして、既に関係者により取り組みが進められているところでございます。ちょうど「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」の実行委員会の委員長であります、またこの部会の副委員長でもありました清水委員が出席されておりますので、後刻、清水委員にご説明をお願いしたいと思っております。

また、中間報告の概要と「YOKOSO! JAPAN」以外の緊急施策の実施状況、さらに今後の部会のスケジュールについての資料説明を事務局から申し上げさせていただくということでご報告に代えさせていただきます。ありがとうございました。

**【八島会長】**

ありがとうございました。  
それでは、事務局お願いします。

**【事務局(五代儀企画課長補佐)】**

それでは、事務局の説明の前に、ただ今ご説明がございましたように、「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」の実行委員長であります清水委員がご出席しておりますので、最初に清水委員にご説明をいただいたうえで事務局のご報告をさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

**【清水委員】**

清水でございます。先ほど中間報告の概要につきまして恩地委員からご紹介がございましたけれども、その中で緊急施策がございます。とりわけ国において今、非常に熱心に取り組んでおられます「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の東北版ということで、「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」というイベントを今年開催してございました。私が実行委員会の委員長を仰せつかりましたので、その概要について最初にご説明をしながら、そのあと若干の時間をいただきましてその時の映像を流し、皆様のご理解を得たいというふうに思っております。

今年2月12日から17日の5日間、山形におきまして「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」というイベントを開催いたしました。これはアメリカ、韓国、中国、香港、台湾の旅行エージェントの代表者、マスコミ関係者を招聘し、東北の祭り、伝統芸能、文化、自然の美しさを体験していただくと同時に、旅行商品の造成についての交流商談会を行うという中身でございました。

先ほど申し上げました5ヶ国から旅行エージェント35人、マスコミ12人の計47人を招聘いたしました。何班かに分かれまして東北各地をご覧になっていただいたうえで、山形に集合いただき、そこで国際シンポジウム、あるいはインバウンドの講演会。それで、本来の趣旨であります交流商談会といったことを開催させていただきました。あとで映像に出てございませけれども、非常に熱心に商談会が行われまして、大変多くの観光関係者の方々にご参加をいただいた訳でございます。

その後の反響も非常に大きく、だんだん成果が上がりつつあるというふうに見てございます。この成功を土台にし、今年は第2回ということで岩手県において開催をしたいということにつきまして、国土交通省の東北運輸局さんのご指導を受けているところでございます。

それでは映像でご紹介をさせていただきたいと思っております。

**【「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」の模様をビデオ上映：約4分】**

**【事務局(五代儀企画課長補佐)】**

どうもありがとうございました。それでは引き続きまして事務局から資料に基づき説明させていただきます。

まず、観光戦略部会の中間報告でございます。

資料2-1をご覧ください。

第1章では、東北地方における観光振興の意義を明らかにし、

第2章では、東北地方の観光の現状と課題を整理しております。

「現状と課題」のポイントとしては、東北地方には自然や温泉、祭りなどの魅力が豊富に存在しているという長所があり、国内旅行については全国9ブロック中の訪問率が約9%と比較的健闘していますが、一方で、外国人や西日本からの観光客が少ないことや、冬

の観光客が少ないといった問題点があるといったところです。

こうした「現状と課題」の整理を受けて、

第3章で東北地方で観光振興を進める上での基本的な考え方を、4つのキーワードで整理し、第4章で進めるべき施策を、1「東北ならではの」の魅力を活かした観光地としての魅力の向上、2誘客活動、3交通アクセスの改善といった項目に分けて、中間的に整理しております。

その上で、第5章で「緊急施策」を明らかにして頂いているところですが、「緊急施策」について、その実施状況と併せながら説明いたします。

一つ目は、「東北6県が一体となった強力なインバウンド・イベントの実施」です。

東北地方を訪れる観光客は、日本全体の約4%と非常に低い水準に止まっていますが、その大きな原因は観光地としての東北の「知名度の低さ」と考えられます。

従いまして、東北の魅力を海外に向けて強力にPRする取り組みを直ちに進めるべきであり、また、外国人旅行者は、複数地域を周遊するタイプの観光が中心となることから、その取り組みは東北6県が一体となって進める必要があるというものです。

実施状況と致しましては、ただ今、清水委員にご説明頂いたとおり、「YOKOSO! JAPAN THE 祭り 東北」が開催されたところです。

また、16年度は、資料3の1の②のとおり、引き続き秋に同様のインバウンド・イベントを開催するとともに、中国全土に対し東北地方の観光魅力を伝える番組を週1回、3ヶ月間にわたり放映するといった取り組みを進めているところであり、施策の更なる強化を図っているところです。

二点目は、「旅行商品造成のための体制の整備」です。

インバウンド・イベントの実施により東北の魅力をPRした上で、実際に東北地方に多くの外国人旅行者を呼び込むためには、海外の旅行会社に東北観光のツアーを造成していただくことが必要になります。しかしながら、東北地方側の窓口を各地域・各事業者バラバラにおいたのでは、旅行会社にとって負担が大きく、ツアーの造成が進みにくくなるおそれがあります。

そのため、総合的な窓口を設け、ツアーの造成を円滑化しようというものであります。

この点については、資料3の別添2のとおり、今年3月に東北広域観光推進協議会に「プロモーションセンター」が設置され、海外の旅行会社などのツアーの造成などに対する支援活動を開始しているところでございます。

三点目は、現在、東北への旅行者が比較的少なく、観光地としての東北のイメージが未だ希薄である海外や西日本を主な対象として、より強力なイメージ戦略として「東北ブランド」を確立すべく、その検討作業を開始しようというものです。

四点目は、東北地方の観光振興のためには「東北ならではの」の魅力を活かし、他地域との差別化を図っていくことが重要であるとのことから、東北地方の各地域の個性を活かした観光地を地域づくりの視点で進めようというものです。

この点についての実施状況としては、資料3の別添3にございますが、15年度に東北地方から会津地区と秋田・岩手地区の2地区、これは、全国では8地域ですが、「観光交流空間づくりモデル事業」の採択を受けており、着々とその取り組みが進められているところです。

五点目は、交通アクセスや旅行費用の軽減の関係です。

東北地方には数多く魅力ある観光資源がありますが、新幹線駅や空港といった交通拠点から離れているものも多くなっています。そこで、交通拠点と観光地を結ぶ二次交通アクセスを充実させることや、交通費などの負担を軽減するための取り組みを進めようというものです。

実施状況としては、資料3の別添4のとおりですが、「ウェルカムカード」、これは外国人向けに配布されているもので、提示することにより施設割引などの特典が受けられるというのですが、これまで青森県で単独で行われていたものが、北東北3県に拡大されたところです。

さらに、実施状況として、昨年7月に福島県会津地域で、観光・商業施設などの割引特

典を付けた鉄道・バス共通フリー乗車券を低廉な価格で提供する「会津ぐるっとカード」が導入されましたが、これと同様のものを他地域にも普及させるということで、資料3の別添5にございますが、既に八戸、仙台で今年7月の導入に向けて準備が進められているところです。

また、低廉な観光タクシーや利便性の高い乗合タクシーの普及を促進するため、観光タクシーの運賃規制や乗合タクシーの要件を緩和したところです。

六点目は、東北地方の観光の大きな課題の一つとして、冬場の落ち込みの大きさがあげられますが、昨今のスキー人口の減少がこの問題をさらに大きなものとしようとしております。そのため、東北地方の冬の観光の目玉の一つである「スキー」を再活性化させようというものです。

その実施状況と致しましては、資料3の別添6のとおり、スキー場再活性化プロジェクトを立ち上げ、昨年度中にモデルスキー場での基礎調査を実施し、今年度は実証実験などを行いつつ検討を深め、スキー場再活性化策を取りまとめる予定としております。

七点目は、情報提供の充実の関係です。

情報提供についても、各地域・各事業者それぞれ取り組まれているところですが、より効果的・効率的にこれを進めるため、東北6県の官民が一体となった情報提供方法を充実させようというものです。

その実施状況と致しましては、昨年4月に北東北3県を対象に二次交通に関する情報の検索システム「東北ネクストごーごーNET」を東北6県版に拡大する準備を進めておりますし、また、資料3の別添7にございますが、東北地方の観光関連のホームページをとりまとめ、さらに5言語というバイリンガル対応とする、「東北観光サイトデータベース」の開設にむけた準備を進めているところです。

最後に、「東北6県観光振興戦略構築のためのマーケティングの実施」ということで、東北6県の観光振興の指針となる「観光振興戦略」の策定に向けたデータ集積・分析を進めるべきというものです。

今後の観光戦略部会のスケジュールですが、こうした「緊急施策」の実施状況、その成果や実施してみたの反省点を明らかに、それを踏まえて審議を進めることとしています。資料4にございますが、予定としては、今年秋に最終報告に向けた審議を行い、さらに今年度中に最終報告をとりまとめたいと考えております。

事務局からの説明は、以上でございます。

#### 【八島会長】

ありがとうございました。ただ今、恩地委員、それから清水委員、事務局より観光戦略部会の中間報告をいただいたわけでございます。東北地方の発展のために、観光産業というものはすそ野の広い、ポテンシャルの非常に高い産業でございます。そういう意味で、引き続き中間報告で提言されました緊急施策をはじめとする取り組みが進められることを期待したいと思っております。また、恩地委員をはじめ観光戦略部会の皆様、東北地方の官民の関係者をはじめ観光戦略部会の皆様には、東北地方の官民関係者の指針となる観光振興戦略の取りまとめに向けて、引き続き精力的なご審議をお願いいたしたいと思っております。

それでは、ただ今ご報告いただきましたことに関しまして、皆様よりご質問、あるいはご意見がございましたらいただきたいと思っております。ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

#### 【菅野委員】

大変的確におまとめになられたというふうに思うのですが、これは中間報告ということで、最終報告に向けて、敢えて若干のお願いを申し上げさせていただきたいと思っております。

一つは、項目としてバリアフリーの問題を是非中に差し込んでいただければというふうに思っています。観光というマーケットの中で、バリアフリーの問題はそんなに相対的に大きいものではないと思うんです。しかし、今やバリアフリー化は社会の規範であるというふうに認識しております。観光資源のバリアフリー化がどの程度東北で進んでいるのかという辺りのデータ、それに伴うバリアフリー、障害者、高齢者などの観光戦略ということについて、

何か振興策を一つお願いできないかということが第一点でございます。

もう一つは、計画づくりの最近の流行り、傾向として、エンドユーザーに参加をいただいて計画を策定していくということ。これが魅力的な計画づくりということに欠かせない側面があるかというふうに思うんです。それはワークショップといったようなことでしばしばいろんな計画づくりに登場するわけですが、今回のような計画にどういうワークショップがあり得るのかというのは、私も具体的にはイメージ出来ておりませんが、知恵を出し合って、いろんな人たちの意見をどういうふうにくみ上げて計画に入れていくのか、その辺りのことを是非ご検討をいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願いたします。

【八島会長】

はい、どうぞ。

【長濱企画振興部長】

どうもありがとうございます。今、お二つのご指摘をいただきました。一点目のバリアフリーの観点でございますが、現段階において、この辺りは十分に入っていない実態があるかと思いますが、これから最終報告に向けまして、この辺りにつきましても勉強しながらということを考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願申し上げます。

二点目の計画づくりに当たりましてのエンドユーザーの参加、ないしは少しでも多くの人々の意見を集約するという話でございます。この辺りにつきましても、この委員会、審議会をやっていくに当たりまして、少しでも幅広い意見を得ることが出来るように努めているところでございますが、おそらく、まだまだ不十分な部分があるかと思っております。これにつきましてものやり方も含めまして考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願申し上げます。

【八島会長】

よろしゅうございますでしょうか。他にございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【稲村委員】

菅野先生と同様にお願といひますか、既に検討されているのかもしれませんが二点ほどお伺いしたいんです。

Webによる情報提供、これ自身はかなり大々的に取り上げられていますし、実際進捗しつつあるということなんですけれども、Webでの予約とか…。ホテルだけではなくてオプションツアーとかレンタカーなども含めてなんですけれども、そういうのが日本というのはなかなかできていない。それとともに精算が行わなければならない。カード精算というのがほとんど普及していない。

私は、外国旅行が好きで、トルコだとかギリシャの方とか東南アジア、タイとか。行く時は全てそういうのはWebで予約して精算も済むんです。そしてキャンセルをするとそのまま払い戻しになるというふうになっている。その辺が一つ、もうちょっとご検討いただけたらなというふうに思いました。

二番目、これは長年の課題だと思っておりますが、宿泊と食事の分離の問題です。日本の伝統といえば伝統なんでしょうけれども、その辺が外国の人にとって非常に障碍になっている。外国の場合は食事の問題のある人というのがかなり多いわけです。その場合、ワンセットでやると必ずテーブルに並ぶような料理になって、もうオプションがないという。そういう状態になっているわけです。そういうことを考えると是非、何とか食と宿泊の分離の話を何らかの形でご検討いただけたらいいのかなと。長年の課題ですのでやられているのでしようけれども、是非お願したいと思っております。

【飯塚東北運輸局次長】

今、稲村先生からご指摘のありました二点でございます。Webの予約なり決済ござい

ます。JRでありますとか航空、あるいは国際観光ホテルといったところはかなり進んでおるんですけども、やはりバスとか中小の旅館、ホテルではまだまだといったところがございます。この辺のところを進めていくにはいろいろお金のかかるような問題もあると思いますので、こういった形で全般的にそういうものができるかといったところを少し勉強してみたいと思います。

それから宿泊と食事の分離の問題でございます。これは各ホテル等の営業戦略みたいなところもあるのだと思います。いろいろコストダウンといった観点から、いかに合理的に進めるかといったこともあると思いますので、これも一つ勉強をしてみたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【八島会長】**

はい、どうぞ。

**【恩地委員】**

取りまとめをいたしました立場で若干、触れさせていただきます。先ほどのお話にもございましたように、緊急に取り組むべき問題、要するに外国人旅行者の推進を図るということのために、他に先駆けてやらなければならないことが多々あるという観点を最優先にしたところでは確かにあると思ひます。先ほど清水委員の方からのご説明にもありましたようなイベントをかけて、実際に関係される方々に共通の認識をもって、それから対応していくということで努めたつもりであったわけでありませう。

今、両先生からご指摘のありましたこと、話題には出ておりましたんです。菅野先生からのご指摘もありましたようなワークショップというものの機能というのを今後早めにつくって行って、今のご提言のようなことを落とし込んでいけるような、そういう組織ができたらいいかと思ひまして、私の方からも改めてお願ひをしておきたいと思ひます。

**【八島会長】**

はい、ありがとうございます。他にございませんでしょうか。どうぞ。

**【上野委員】**

少し教えていただきたいんですが、中間報告の8ページです。緊急に取り組むべき施策に関する提言の8ページ(3)の「東北ブランドの確立」のことです。県単位ではなくて東北という単位でくくってブランド化を図って、統一的なキャッチコピーやロゴマークとともに発信する。これは本当にすばらしいなと思ひますが、これからその確立に向けて検討作業を開始すべきであるというご提言なんですが、言うは易くなかなか難しいなということを感じているものですから、今の段階で「東北ブランド」というイメージみたいなもの、部会の中でどのようなお話し合いがあったのか。もしあったのであれば、どんなイメージで「東北ブランド」というものを確立されようとしているのか。端緒みたいなところでもお聞かせいただければありがたいなと思ひてお聞きしました。

**【長濱企画振興部長】**

「東北ブランド」の具体的な中身につきまして、今現在、これがあつた方がいいだろうなというところに議論がとどまっております。これからこの具体化の作業に入っていくという段階でございます。

ただ、これをどのように作業の中でつくっていくのかというイメージでございますが、清水委員に委員長を務めていただいております「YOKOSO! JAPAN」実行委員会の場合などの意見交換としましては、例えばパンフレットなどを東北六県で共通して作る。そういうものを海外に発信するに当たりまして、そのベースとして、やはり「東北ブランド」というものは議論されなければいけないだろうというようなことが意見交換されてございます。

以上でございます。

## 【八島会長】

はい、どうもありがとうございます。他にございませんでしょうか。

ご意見も大分出ました**が**、これは皆さんからの極めて貴重なご意見でございまして、今後は是非進めていただきたいと思います。

特に私も感じますことは、先ほど菅野委員からも**発言がありました**バリアフリーの問題です。これはハード、ソフトといいますか、フィジカルの問題とメンタルの問題と、両方のバリアフリーが必要だと思うんです。旅行者を受け入れるというのは、その受け入れる側のハートの問題も極めて大事な問題だと私は思っております。

それから、私も**いろいろ**なところを旅行して歩くんですが、**日本人として**一番感じているのはやはりランゲージのハンディキャップ**であり**、これがものすごく大きいと思います。私、去年たまたま新疆ウイグル自治区にまいりました。塔吉克(タジク)千仏洞という**ところで**「年間、日本人がどのくらい来ますか」と聞きますと、せいぜい多くて**20人くらいという返事でありました**。それで日本語のわかるガイドさんに「あなたどこから来ました」と言いましたら「私は長春から飛んで来ました」と言うんです。何千キロというものをパッと移動させてしまう。やはり中国というのは組織や国の体制も違うからそうなんでしょうけれども、**その辺のサービスのきめの細かさや機動力に驚かされました**。日本のように細かい組織一つ一つが独立性を持っているとなかなか融通も利かないわけでございます。

それと、やはり**ガイド**の養成というものが極めて大事だなという感じがいたします。英語圏だけではないですから。東南アジアというのを対象にすることがやはり極めて大事だと思っております。そういうところを今後充実していく必要があるのかなという感じを特に思っております。

それでは次の議題に入りたいと思います。次は交通部会について事務局よりご説明をお願いします。

## 【事務局(五代儀企画課長補佐)】

それでは、事務局より、「交通部会」の検討課題、スケジュール、委員構成を一括して説明させていただきます。

はじめに、検討課題案の説明でございますが、その前に、東北地方の交通の現況、特に最近の主な動きについて、若干、触れさせていただきます。

まず、資料5として「東北地方における交通の現況」を準備させていただきました。

これは、前回の審議会でご説明させていただいたデータ集をリニューアルしたものでございますので、詳細な説明は省かせていただきますが、ポイントと致しましては、

東北地方は広大な面積を有し、都市が分散して所在していること、

本格的な人口減少、少子化が到来する中で、東北地方は全国平均を上回る勢いで少子化などが進展していくと見込まれること、

マイカーの普及が進み、現在では一人当たり0.43台、2～3台所有している世帯も見られること、

こうした中、旅客輸送分担率はマイカーの比重が非常に高くなっていること

少子化やモータリゼーションの影響を受け、乗合バスをはじめ「地域の足」の利用者数が減少傾向にあること、

一方で、新幹線・空港などの整備により都市間の時間的距離が短縮し、都市間・地域間を結ぶ輸送は増加傾向にあること、

貨物輸送の分野でも、トラックの比重が高く、鉄道貨物については減少傾向にあること、などでございます。

続きまして、この1年程度の最近の動きの主だったところにつきまして、資料6により説明させていただきます。

まず、新幹線、航空、高速バスといった広域ネットワークの関係でございます。

最近の東北地方の交通の関係で、最も大きな出来事といえば、やはり14年12月の東北新幹線の八戸延伸開業ということになると思いますが、この八戸延伸のインパクトがどのようなものであったかといった点について、図表1をご覧くださいと思います。開業後

1年間、つまり14年12月から15年11月の1年間でみますと、

東北新幹線の盛岡―八戸間の輸送人員は、これはそれ以前の特急の輸送人員との比較になりますが、約5割の増加となっております。

また、八戸から先の青森・弘前へのアクセス特急の輸送人員も、大きく増加しているところであり、開業に伴う二次アクセスの改善も相俟って、新幹線効果が広く波及しているとみられます。

一方で、高速バスの一部、特に、盛岡-弘前、仙台-八戸や航空では青森-東京、三沢-東京の輸送人員が、大幅な減少もみられたところであり、東北新幹線の延伸は輸送モード間の分担も含めて、大きな変動をもたらしたところです。

続いて、高速バスです。図表2をご覧頂きたいと思います。

高速バスについては、傾向として、営業キロ、輸送人員ともに増加といったものですが、この1年程度、15年と14年の比較でみると、長距離便はおおむね減少となりました。また、管内中距離便はおおむね横ばいですが新幹線の影響で大幅減となったものもみられました。

一方、中距離東京便は東京-新宿が147%と増加しており、また、管内短距離便については、仙台-福島が143%と伸びております。

続いて、航空です。図表3をご覧頂きたいと思います。

国際線については、SARSなどの影響もあり、約3割の減少でした。また、仙台―ホノルル便、仙台―香港便の運休といった動きもあったところです。しかし、一方で、現在新たな国際定期便開設に向けた動きもある模様です。

国内線については、管内合計ではやや減といったところです。

なお、空港アクセスに関しては、秋田空港と周辺観光地間などで乗合タクシーが運行され、路線も拡大されるなど、利便性の高い新たな取り組みが進みつつあります。

続きまして、都市交通の関係でございます。図表4をご覧頂きたいと思います。

都市交通については、例えば仙台市などではマイカーの利用率が増加する中、地下鉄やバスの輸送人員は減少が続きまして。

一方で、公共交通機関の利用を促進しマイカー利用を抑制して道路渋滞などの都市交通問題を解決するための取り組みとして、例えば、地下鉄東西線については15年9月に事業許可を受けるなど手続きが進んでおりますし、TDM（交通需要マネジメント）実証実験として行われていた「100円パッ区」が実験期間終了後の15年10月からエリアを拡大の上、本格運行に移行するなどの動きが見られました。

続きまして、地域交通の分野でございます。図表5～7をご覧頂きたいと思います。

地域交通に関しては、いわゆる「地域の足」の利用者が減少傾向にございますが、15年をみましても、乗合バス、地方鉄道、離島航路いずれも対前年比で減少となったところであり、利用者減の傾向に歯止めがかからない状況が続いております。

一方で、路線バスの廃止などにより交通空白地帯となったところでの代替交通手段については、新たな取り組みが進んでいる地域もございます。図表8をご覧頂きたいと思います。

その一つの例が、全国的にも注目されている福島県小高町ではじめられたデマンド型の乗合タクシーです。これは、利用者の需要に応じて柔軟に路線を設定し乗合形態で運行し、タクシーのもつドアツードアの利便性と運賃の低廉化や自治体の負担の軽減化を図るものです。現在、東北運輸局管内だけでも6地域で導入されており、普及が進んでいます。

その他の関係でございますが、図表では、9～12になります。

バリアフリー関係では、バリアフリー法に基づく基本構想が15年度末までに6市で策定され、また鉄道駅のバリアフリー化やノンステップバスの導入も徐々に進んできているところです。

環境対策関係でございますが、低公害車の導入状況をみますと、15年9月時点で全車両の9.5%を占めるまでとなっております、これも進んできております。

また、自然保護などの観点からのマイカー規制の取り組みとして、15年9月に奥入瀬溪流において、2日間ですが、マイカー規制を行い代替手段としてシャトルバスを運行す

るといった実証実験が行われるなどの動きもありました。

物流の関係ですが、15年は、鉄道、トラック、海運の各モードとも輸送量が減少しました。一方、外貿コンテナについては、増加がみられました。また、物流体系の効率化・環境対策の動きとして、モーダルシフトの取り組みの進捗がみられました。

以上が、東北地方の交通に関する最近の主な動きでございます。

続きまして、検討課題（案）について、背景や問題意識にも触れながら、説明させていただきます。

資料7-1をご覧くださいと思います。

交通部会では、大きく3つのテーマについてご審議をいただければと考えております。

一つ目は、「幹線ネットワークの整備」でございます。

東北地方においては、人口減少、少子高齢化等が進む中、地域経済を活性化させ、地域の公共交通の利用を促進するためには、広域交通基盤の整備効果を活かして、都市間・地域間の交流を促進することが重要と考えられます。

先ほど説明いたしましたとおり、東北新幹線の延伸により、都市間交通の活発化と輸送モード間の分担の変化など、大きな変動がございました。そして、これから新幹線と言えば、東北新幹線の新青森への延伸、空港アクセスと言えば仙台空港アクセス鉄道の整備などのプロジェクトも進められているところです。

こうした状況を踏まえながら、交流人口の拡大による東北地方の活性化を目指して

「新幹線」の関係では新青森延伸を着実に進めるとともに、延伸効果を拡大するための取り組み、例えば在来線との接続の改善や新幹線新駅から周辺の都市・観光地へのバスや乗合タクシーのような二次交通の充実などの進め方について、

「航空の関係」では、東北地方のゲートウェイ空港である仙台空港の広域活用の促進を図る観点から仙台空港アクセス鉄道の整備効果を活かすため、在来線との相互直通化や接続の改善をどのように進めるべきか、

また、他の空港も含めて、バスや乗合タクシーなどの空港アクセスをどのように充実させるべきか、

「高速バスの関係」では、路線・便数の拡大により利便性が向上してきていますが、これをどのようにして、一層進めていくか、

といったあたりについて、ご審議を頂ければと考えております。

二つ目は、「都市交通の整備・改善」の関係でございます。

快適で活力のある都市づくりを進めるためには、交通の役割は重要です。

道路交通渋滞などの都市交通問題を解消するため、地下鉄の整備や新駅設置・交通結節点整備などの都市鉄道の機能強化、オムニバスタウン構想によるバスを中心としたまちづくり、交通需要マネジメントの推進などの取り組みが現在でも進められておりますが、こうしたものをどのように促進していくべきか、といったあたりについて、ご審議を頂ければと考えております。

三点目は、「地域交通の維持・整備」です。

少子化やモータリゼーションの進展により、路線バスや地方鉄道、離島航路の利用者数の減少が続き、その維持が難しくなってきているところですが、住みやすい地域づくりのためには、こうした「地域の足」を確保していくことが不可欠です。

こうしたことから、

バスや鉄道などの維持のため、利用者数減少に歯止めをかける利便性の向上などにどのように取り組み、その維持を図っていくべきか、

路線バスや鉄道が撤退せざるを得なくなった地域において、住民にとって利便性が高く、地方公共団体の財政面でも負担が小さくなるような、代替的な交通手段の整備をどのように進めていくべきか。

なお、これらの点については、先ほど説明したデマンド型乗合タクシーのような地域の実情に合わせた新たな取り組みが進められている事例もあり、また、規制の面でも地域の実情に合わせた多様な取り組みを推進できるよう改善が図られていることなども踏まえつつ、ご審議を頂ければと考えております。

以上の主要な検討課題、三点のほか、バリアフリー化をどのように推進していくか、環境に優しい交通体系をどのように整備していくか、また、物流に関して、モーダルシフトの推進や静脈物流体系の構築などの課題にどのように取り組んでいくか、といった事項についても検討を進めたいと考えております。

続きまして、「交通部会の審議スケジュール」でございます。

交通に関する審議を速やかに進めていきたいということで、第1回の部会は、この審議会終了後、本日午後2時45分から開催する予定としております。

そして、本日の部会で頂いたご意見も踏まえながら、事務局で所要の調査・ヒアリングなどを行い、たたき台を準備させていただいた上で、今年秋には第2回審議会を開催し、ご審議を頂きたいと思っております。

その後、さらにご審議を頂き、東北地方の望ましい交通のあり方に関する中長期ビジョンを、秋から冬頃におとりまとめいただき、16年度の冬に、この審議会にご報告を頂くといった案を考えております。

また、交通部会の委員構成ですが、東北地方の各地域で、さまざまな立場で交通問題に取り組んでおられる方々にご参画いただけるよう、資料7-3のような構成と致しました。

よろしくご審議をお願い致します。

以上でございます。

#### 【八島会長】

ありがとうございました。ただ今、事務局の方から東北地方の最近の交通の動向、そして交通部会の検討課題の案などについてご説明があった訳でございます。また、交通部会の第1回というのは、この審議会終了後に開催をするという話もございました。

それでは、ただ今のご説明につきまして、ご質問、あるいはご意見がございましたらお願いいたします。ございませんでしょうか。

ないようでございますので、次の議題に入らせていただきたいと思います。次の議題として3番目でございます。事務局、何かございますか。

#### 【事務局(五代儀企画課長補佐)】

次回の審議会でございますが、交通、観光の両部会での審議結果がまとまったのちに、今年度の末ごろを予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また、本日いただきました貴重なご意見は、交通部会で紹介させていただき、今後の検討に活かすこととさせていただきたいと思ひます。以上でございます。

#### 【八島会長】

ありがとうございます。それでは予定された議題が終了いたしましたので、議長から事務局の方へお返し申し上げます。

#### 【事務局(五代儀企画課長補佐)】

どうもありがとうございました。委員の皆様にはお忙しい中、本当にありがとうございました。これもちまして第7回東北地方交通審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。